越前市におけるブラジル人児童への学習支援

Abstract

We conducted research on learning support for Brazilian children in Echizen City. The question was what kind of effect would the learning support for Brazilian children with supplementary materials have on their Japanese language learning? We first conducted a questionnaire session at Echizen City Hall and visited elementary schools to understand the current situation. After that, we decided to create Japanese language teaching materials for 3rd grade elementary school students, and proceeded to create a prototype. After distributing the prototype, we improved the teaching materials based on feedback and distributed the completed materials again. At that time, a questionnaire was also distributed together with the renewed materials, and the results were used as the basis for further discussion. As a result, we concluded that the study materials were effective in improving students' motivation to learn, learning efficiency, and Japanese reading comprehension, as well as in deepening their understanding of Japanese expressions, Japanese culture, and the teaching materials. However, there is room for improvement.

1　はじめに

本研究ではSDGsの17の目標の中で、高校生に身近なものであると考える「質の高い教育をみんなに」に関連する問いをあげていく中で、越前市のブラジル人が多く在住しているという特徴に着目し、本研究を進めることにした。

(1)問い

問いは「ブラジル人児童に補助教材での学習支援を行うことで児童の国語の学習においてどのような効果があるか」である。

(2)越前市における外国人居住者の現状

越前市の外国人居住者数は近年増加傾向にあり、2018年10月現在で4,262人、越前市総人口の5%を占め、全国平均の2%を大きく上回っている。外国籍市民を国籍別にみると、2018年10月時点でブラジル人が3,045人と外国籍市民全体の71%を占めている。

2　方法

本研究では、教材の作成を6つの段階に分けて行った。

1,現状の把握

越前市の現状を知るために、越前市役所教育振興課指導主事の田中梨絵様をはじめとするブラジル人児童の教育支援に携わる方々を対象に質問会を行った。また、越前市武生南小学校へ訪問した際に、実際にブラジル人児童への取り出し授業や普段のクラスでの様子を見学した。

2,支援のターゲットを絞る

小学3年生になると、国語の教材において文字数や漢字の数が増えること、理科、社会、外国語活動が始まり国語の学習にかけることができる時間が減ることから小学3年生の国語の教材を作成することにした。

3,教材の形式を考える

先行研究、質問会、小学校訪問から、教材の形式をリライト教材(図1)と補助教材を組み合わせたものに決定した。

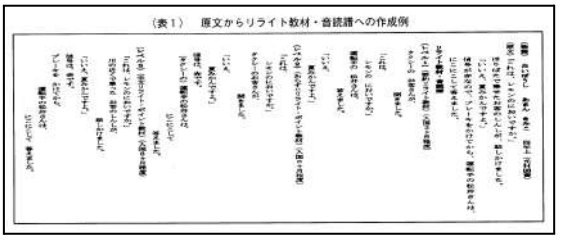


図1　リライト教材の例　(出典:外国人児童のためのリライト教材・音読譜による国語科の指導)

4,教材(試作品)の作成

試作品の作成は以下のような手順で行った。

①実際に自分たちで教科書を読んだ時に、意味が分かりにくいと感じた所に印をつける
②選んだ言葉を書き出す
③選んだ単語の説明を考える(小学館の国語辞典を参考)
④言葉のみでの説明ではわかりにくい単語を絵で表現する
⑤授業や家庭学習で使用しやすい冊子形式で補助教材を作成(図2)

図2　(左側：本研究で作成した教材、右側：元の教科書)

5,試作品の配布
　試作品の題材は、小学校3年生の国語の教科書に掲載されている「きつつきの商売」とした。越前市役所教育振興課の田中梨絵様と、越前市武生南小学校教頭和田祥朗様に受け渡した。

6,試作品の改善、教材の作成
　試作品の回収の際にフィードバックで頂いた意見をもとに、改善点を洗い出した。
〇フィードバック
・教科書の文章をいかに想像させることができるか
・「だれのため」「なんのため」の教材か
・動画はURLだけだと開きにくい
・基本的にひらがなで説明
・説明が長くなってしまっている箇所がある
・やさしい日本語を意識
・単語とその説明の形式を統一
〇改善点
・絵や写真を活用、話のつながりを意識して単語の説明
・対象を児童本人に限定
・QRコードを追加
・漢字で説明していた箇所を訂正
・できるだけ説明を短く、長くなる場合スラッシュをいれる
・場面にあった説明をすることを優先
・単語は太字＋青色、説明との間に空白
　以上の改善点をもとに教材の改善を行った。
　(図3,図4,図5,図6)
(例：①、②)
例：①文の色を変える
説明をすべてひらがなにする

図3　試作品

図4　改善した教材

例：②QRコードを追加する
長い文章(ひらがなでの説明で十文字以上になるもの)にスラッシュ(/)を入れる

図5　試作品

図6　改善した教材

7,改善点を踏まえた教材とアンケートの配布と回収

教材とアンケートの2つは、試作品の配布を行った越前市役所と越前市武生南小学校の2ヶ所に配布した。渡した作品は「ありの行列」「こまを楽しむ」「3年とうげ」「すがたをかえる大豆」「ちいちゃんのかげおくり」「モチモチの木」の6つである。また、アンケートでは、下記の9項目について効果が得られると考えられるかを越前市の教育関係者の方々にお答えいただいた。

〇アンケートでお聞きした項目

・児童の学習意欲が向上する
・児童が学習をより効率良く進めることができる
・児童の学力向上につながる
・児童の日本語読解力の向上につながる
・児童の日本語でのコミュニケーション力向上につながる
・児童の日本語でのコミュニケーションに対する意欲が向上する
・児童の日本語特有の表現に対する理解が深まる
・児童の日本文化に対する理解が深まる
・児童の教材に対する理解が深まる

3　アンケート結果と考察

配布させていただいたアンケートで、以下のようなご意見・感想を頂いた。

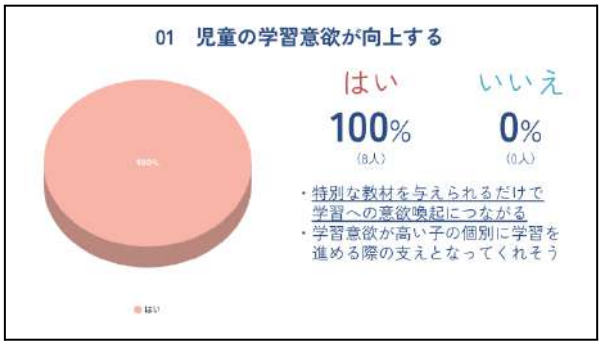
〇良かった点

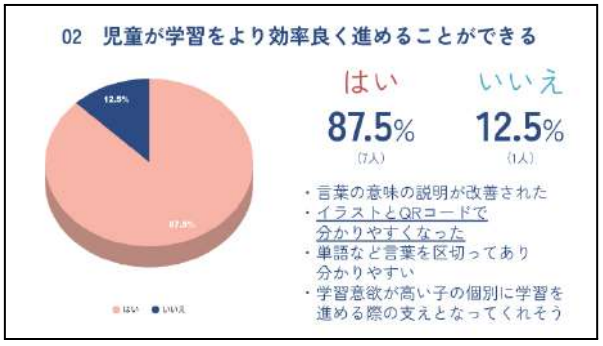
・言葉の意味の説明が改善された
・イラストとQRコードで分かりやすくなった
・単語など言葉を区切ってあり分かりやすい
・教材を通してコミュニケーションの場を設定することでコミュニケーション力向上につながる
・この補助教材が周りの子とのコミュニケーションのかけはしになることを期待する
・特別な教材を与えられるだけで学習への意欲喚起につながる
・学習意欲が高い子の個別に学習を進める際の支えとなってくれそう
・外国籍の子たちの理解につなげたい
・児童の立場になって考えられている
・今後授業の際などに活用していきたい

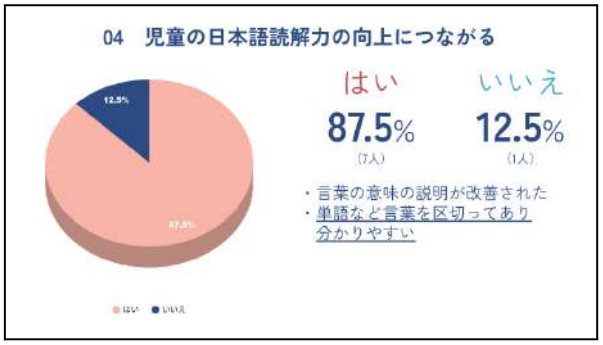
〇悪かった点

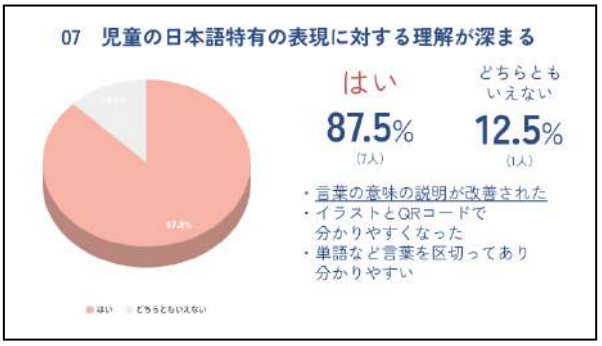
・単語の説明と文章中の意味が合わない部分がある
・ポルトガル語での訳があるとより分かりやすい
・言葉の説明はもう少し『やさしい日本語』であると良い
・言葉と助詞で分けられているとさらに読みやすく、理解しやすい
・単元の役割について理解する必要がある
・文章の何が主語なのか分かると良い

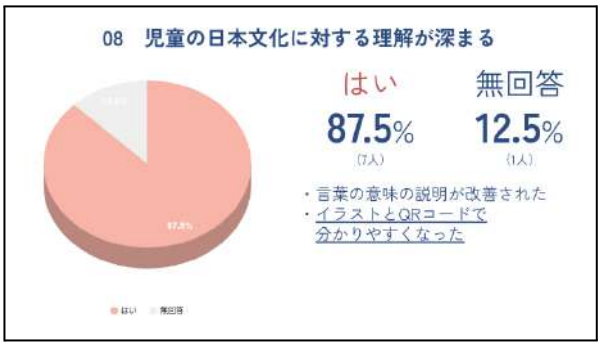
そして、これを元に考察を進めた。本研究では、合計9名の越前市の教育関係者の方に回答していただき、各項目について「はい」と答えた人が80%以上だったもの(図7)については「はい」の占める割合が高くなった原因を、「はい」と答えた人が80%未満であったもの(図8)については「はい」の占める割合が低くなった原因を考察することとした。











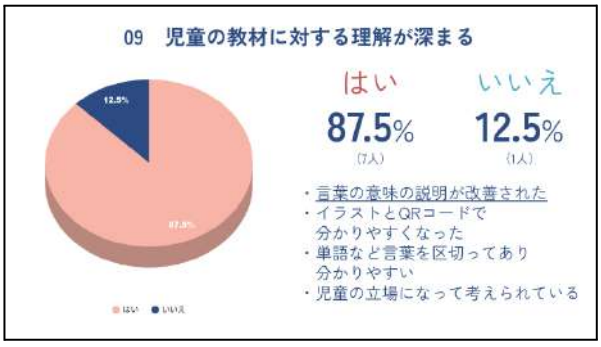
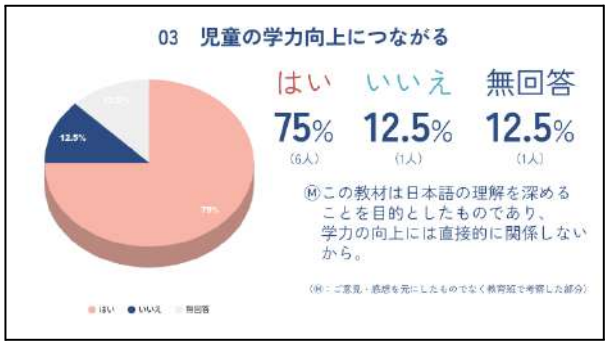
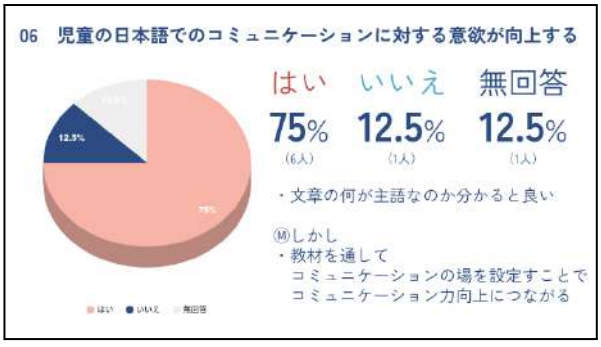


図7　「はい」の占める割合が80%以上だった項目のグラフ(「はい」の占める割合が高い順)





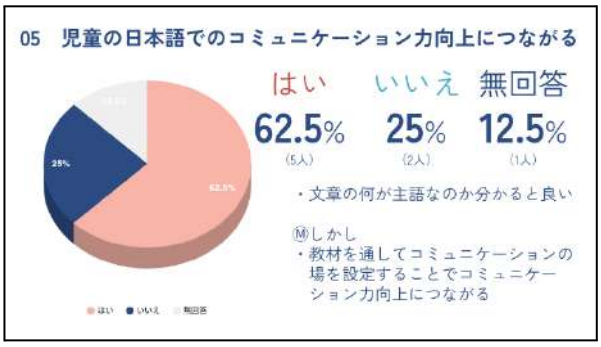


図8　「はい」の占める割合が80%未満だった項目のグラフ(「はい」の占める割合が高い順)

考察の結果、「はい」の割合が80%以上のものについては、言葉の説明・イラストや、QRコード、文節ごとのスラッシュ等、児童本人の立場に立って考えた工夫が高く評価される要因になった、「はい」の割合が80%未満のものについては、『やさしい日本語』での説明を心がけたが、主語・述語の区別など難しい部分の説明がなかったことが低く評価される要因になったと考えた。

4　結論

アンケート結果の考察から、本研究で作成した国語の補助教材は、「ブラジル人児童の学習意欲、学習効率、日本語読解能力の向上や、日本語特有の表現、日本文化、教材に対する理解が深まった」という結論に至った。さらに、学力や日本語でのコミュニケーションに対する意欲、日本語でのコミュニケーション力の向上も期待できると考えるが、そのためには作製した補助教材を改善する必要があると考えた。

5　展望

今後の課題は、日本人児童とブラジル人児童とのコミュニケーションに対する壁を、さらに低くするためにはどうすればよいか。また、主語と動詞、名詞と助詞などをどのようにして区別するかである。加えて、今後は実際に教材を使っていただいたり、他学年、他教科の教材の作成をしたいと考えている。

参考文献

・半原 芳子, 柴岡 小百合(2015)「福井の外国籍児童生徒の学びを支える　実践の展開を巡り今後の方向性を見出す」
https://u-fukui.repo.nii.ac.jp/record/29332/files/BD10126382.pdf 2023年1月24日
・竹内愛(2022)「外国にルーツを持つ子どもの教育課題―教員・児童生徒の視点から―」
https://kyoai.repo.nii.ac.jp/records/246 2023年1月24日
・光元聰江,岡本淑明,湯川順子(2006)「外国人児童のためのリライト教材・音読譜による国語科の指導」
https://core.ac.uk/download/pdf/12546387.pdf 2023年1月24日
・光元聰江(2014)取り出し授業と在籍学級の授業とを結ぶ「教科書と共に使えるリライト教材」
https://www.jstage.jst.go.jp/article/nihongokyo

iku/158/0/158_19/_pdf/-char/ja 2023年1月24日
・西野七海,江草遼平,青山和裕,辻宏子(2019)「外国人児童の算数学習支援のためのリソースに関する研究」
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsser/34/3/34_No_3_190346/_pdf/-char/ja 2023年1月24日

6　謝辞

本研究を進めるにあたり、現在のブラジル人児童教育についてのたくさんのご教示を頂いた、越前市役所教育振興課指導主事の田中梨絵様、越前市武生南小学校教頭和田祥朗様にお礼申し上げる。